

挨拶

退任挨拶

前副会長
大 門 悟



唐突な形で副会長職を仰せつかり、不安を感じながらも、野間口会長のリーダーシップのお陰で無事に任期を終えることができました。振り返れば、「理事会」並びにYKK黒部事業所並びに三菱重工長崎造船所でそれぞれ開催された「異業種経営者を囲む座談会」には全て出席でき、協会幹部の方々とも親しく交流させて頂き、自分の経験談、持論を紹介する機会も得、また、昨年は思いがけなく特許庁長官賞を授与する光栄にも授かり、個人的には、企業人、知財人としての集大成期にふさわしい時を過ごすことができ、皆様には厚くお礼申し上げます。

さて、国を挙げて知財推進計画に取組み、また、各企業、地域社会でも知財戦略が定着してきたと思いますが、知財に関する仕組み、知財そのものの質、そして知財に取り組む個々の知財人の力、見識は、まだ「期待値」には到達していないのではないかと思います。勿論、今までの幾多の法改正、知財の質を高める個々の工夫、知財啓蒙活動など数々の努力の蓄積を否定、過小評価する気は毛頭ありませんし、発明報奨問題、パテントトロール問題など、時代の流れの中で勃発する重要案件への対処や、将来のための人材育成、そして、各企業それぞれが直面する経営問題への全社的な立場での参画も重要ですが、経営資源としての知財を預かる立場で捉えた場合に、もっとも重要なことは、よりよき社会の実現に向けて資本が投資され新たな産業の基が生み出され続けるためには知財を不安定なものではなくて少しでも確たる存在にすることであり、そのためには法の仕組みの見直しも必要ですが、知財人がその時代の法制度、運用に即して知財を最適な形に具現化し、それらを活用出来る力を備えるべきであり、知財への取り組みには休止、終りはないと思います。

現状の知財に関する仕組みを権利者側優位にシフトすることと、知財制度の本来の役割である人間社会のより一層の発展のためへの研究、開発投資を誘引、実現させることとのバランス、そして全世界レベルでの公平、公正さについての議論が進められる中で、皆様方は皆様方の属される業界、企業での知財に対する最適な取組み方を模索し続けなければならないと思います。そのような中で、日本知的財産協会は多くの方々との情報、意見交換、更には意見発信の「場」を提供して来ています。昨年来、未曾有の経済状況で、委員会活動、協会行事への参画が困難とも一部で聞き及びますが、会員企業の皆様は、積極的に協会活動に参画し、「場」を維持、発展され、また、「場」から多くのことを得て頂きたいと思います。

日本知的財産協会での公の立場、そして企業人としての立場をも離れるにあたり、長年、協会の方々、多くの知己の方々とのご交流を経て、今、感じていることを述べました。

最後に、日本知的財産協会のますますの発展と、皆様方の今後の一層のご活躍を祈念して私の挨拶とさせていただきます。